

令和 6 年度 第 2 回羽島市社会教育推進審議会 会議要旨

日 時	令和 6 年 8 月 2 日（金）午後 1 時 3 0 分～午後 2 時 3 0 分
場 所	羽島市役所 第 1 委員会室
出 席 者	（社会教育委員）出席者 4 人（欠席者 4 人） 松尾 東彦 委員(子ども会育成協議会代表) 白木 幸子 委員(羽島中央生活学校代表) 花村 伸二 委員(小中学校長会代表) 渡邊 修 委員(コミュニティセンター館長会代表) （事務局） 伊藤佳津子（市民協働部長） 岩田 睦巳（生涯学習課長） 柴田 泰宏（スポーツ推進課長） 番 重宗（図書館長） 大橋 寛子（生涯学習課主幹） 吉田 智紀（同課係長） 杉山 大祐（同課主事）
内 容	1 開会 ・資料確認 ・会議開催成立の報告 ・会議公開及び傍聴の有無の報告 2 副委員長あいさつ 3 議事 令和 6 年度羽島市生涯学習・スポーツ推進事業の進捗について （令和 5 年度実績）（案） 資料に基づき、事務局より令和 5 年度実績を説明。 （委員） 各地域での青少年活動の支援ということで、推進に関して研修会を開催しているという報告がある。この研修会ではどんなことをしているのか、その結果どんな効果があったのか、また今後変えていった方がよい点があれば、教えていただきたい。 （事務局） 令和 5 年度に行った研修では、一般社団法人ココラボの伊藤氏を招聘した。この研修では、大人が子どもにどのように関わっていけば良いのか、ワークショップ形式で推進員同士が意見を出し合い交流した。大人目線での意見が多く出る中で、伊藤氏から「子どもはこんな目線で見ている」との話があり、有意義な研修であった。

(委員)

上中コミュニティセンターでも青少年向けの活動をいろいろ行っているが、推進員はお手伝いの意識がまだ強い。本来はもっとこうした方が良いという意見をいただきたいと考えている。コミュニティセンターでも考えていく必要があるが、どのようなことを推進していくのか、今後も相談させていただきたい。

(委員)

今年6月に開催した「わたしの主張」では、ビデオで出席する新しい取り組みがあり、どの生徒も参加できる環境づくりの一步となった。大変ありがたく思っている。

子どもフェスティバルや壁新聞、ジュニアリーダーにおいても、地域の子ども会で精力的に取り組んでいただいている。

放課後子ども教室では、様々な体験活動を用意していただき、児童も大変喜んでいる。今後も子どもたちに夢や希望を与える活動であってほしい。

出前講座についても、災害時の給水車の活動など授業で活用させていただいた。2学期以降もぜひ活用したい。

電子図書も引き続き活用している。

竹鼻祭については、子どもたちから「山車に乗って踊ってきた」と聞いた。竹鼻地区以外の子でも参加でき、貴重な体験であったと嬉しく思っている。

(委員)

8ページ「放課後子ども教室における伝統文化活動の実施率」の成果指標が、前年と比べてわずかに下がっているのはなぜか。

(事務局)

2023年度は34%となったが、2025年度までに20%を達成する目標となっており、既に達成していることを表すものであることをご理解いただきたい。

(委員)

図書館の活動について、コミュニティセンターと連携して具体的にできることがあれば、教えてほしい。

(事務局)

各種イベントを開催する際に、いかに広く知ってもらうかが重要

だと考えている。コミュニティセンターは地域の方が集まる重要な拠点のため、チラシやメール等での案内を考えている。

また、以前にも話をさせてもらったが、コミセンが団体登録をして書籍を借りることで、地域の方がコミセンにて本を読むことができる団体貸出の制度を推進しており、ぜひ活用いただきたい。

(委員)

団体貸出については、ぜひ具体的に考えていきたい。

広告の仕方について、図書館以外にもさまざまなイベントのチラシがコミュニティセンターに回ってくるが、効果が薄いように感じる。チラシ以外にも効果的な方法があればまた教えてほしい。

(委員)

近年スマホが普及したが、図書館の来館者数や本の貸出数は以前と比べどうなっているか。

(事務局)

来館者数について、令和2年度コロナの時期は85,000人であったが、令和5年度は136,000人と大きく回復した。

貸出数について、令和5年度の実績は蔵書が290,000冊、電子書籍は83,000冊であった。

(委員)

貸出される方の年代を教えてほしい。

(事務局)

30代、40代、50代は約40,000冊、60代と小学生も多いため、中学生から30歳までの方が特に少ない状況である。

(委員)

本の貸出が少ない世代はスマホを操作する時間が特に長いと思う。最近は小中学生でも、スマホに頼りきりで、本を読んだり字を書いたりすることや、人との対話が苦手な子が多いのではないかととても心配している。子どもの健全な成長のため私たちに何ができるのか、考えがあったら教えてほしい。

(事務局)

図書館としては、赤ちゃんタイムやボードゲームイベントの開催

など、人が集まって交流できる場を提供することが大切と考えている。今後もさまざまな世代の方がコミュニケーションをとれるようなイベントを開催していきたい。

いただいたご意見について、学校教育課にもつないでおく。

(委員)

電子書籍や学校図書について、ありがたく利用させていただいている。

赤ちゃんタイムはとても良い取り組みである。読み聞かせ等と合わせてどんどん図書館へ来ていただき、それが広まって羽島市で子育てをしてもらえる方が増えれば素晴らしいと思う。

資料に赤ちゃんタイムの参加者数が477人とあるが、これは赤ちゃんだけの人数か、親子合わせての人数か。

(事務局)

赤ちゃんと保護者合わせての人数となっている。

(委員)

体力づくりやスポーツ推進についていろいろな施策があると思うが、最近地域のグラウンドで遊んでいる子どもが非常に少なくなっていると感じる。推進のために新しい運動施設をわざわざ造らなくても、地域の方にももっと広く利用いただき、そこで子どもが遊んでいれば大人とのつながりもできてくる。運動する回数を増やしたり、人と人のつながりを地域でつくったりするアイデアを、今後考えていきたい。

(委員)

「3クラブが学校と連携を図り」とあるが、竹鼻中学校は含まれていないのか。

(事務局)

令和5年度に休日の部活動の地域移行に取り組んだのが3クラブということであり、竹鼻中学校はいち早く令和4年度から取り組んでいる。全国でも先駆けて行っており、注目されている。

(委員)

近年は非常に高温の日が続いており、放課後も外で遊んでいる子は少なくなっている。体力づくりの面では厳しい気候であると感じ

ている。室内での運動でも、体育館は非常に高温になる。体育館にエアコンを付けてもらえれば、夏季でも運動がしやすくなると考えている。

また、ボッチャ大会やファミリースポーツ広場など、地域の方が参加できるイベントをこれからもぜひ続けていただきたい。

4 その他

次回社会教育推進審議会、及び各種研修大会等について、事務局より案内。

5 市民協働部長あいさつ

6 閉会

以上